

## Kestenberg Movement Profile 理解のための動きの実体験に基づく教材研究

崎 山 ゆかり  
(武庫川女子大学文学部教育学科)

### A Study of Teaching Materials based on Movement Experiences for understanding Kestenberg Movement Profile

Yukari Sakiyama

*Department of Education, School of Letters  
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan*

#### Abstract

Kestenberg Movement Profile (KMP) is said to be a great tool for analyzing human movement from a psychodynamic and developmental point of view in dance/movement therapy. The author has finished all of the intensive courses for the level one certification and is now a qualified KMP Certified Analyst. This study focuses on its introductory course, which consists of theoretical and practical parts with numerous reflections and discussions. In particular, the structure of the 30-hour KMP introductory course has four parts. They are; theoretical understanding through lectures or reading references, observing various movement through movie clips, experiencing various movements of KMP elements, and verbalizing what and how participants feel via feedback. The circulation of the four parts is indispensable for understanding KMP. In addition, through these experiences, the importance of movement experiences was a clear focus. These movements are a core aspect of the circulation.

For further study of KMP in Japan, a development of teaching materials for practical movement experiences is required. Beyond the gaps of English-Japanese translation of technical terms, we need various devices for inducing KMP movements. Especially, cards written in English and Japanese of technical terms of KMP, color cubes of each movement pattern or dice of each movement quality, and edited music for inspiring Tension Flow Rhythm and Tension Flow Attributes are indispensable. Pictures of various movements by recognizing Shape Flow patterns will be also useful. Comparing movements with match and mismatch, scripts for play will be supportive for understanding each difference. The materials will be utilized for Japanese KMP students for the next step.

#### 1. はじめに

これまで筆者は、ダンス・ムーブメントセラピーなどで用いられる精神力動的な発達段階を枠組とした運動分析法である Kestenberg Movement Profile (KMP)<sup>1)</sup>について、大橋の先行研究<sup>2) 3)</sup>をふまえ、KMP 文献の訳出<sup>4)</sup>、KMP 理論の枠組を図示した色別輪形図の日本語版の作成<sup>註1)</sup>、オノマトペによる関連する動きのイメージ把握<sup>5)</sup>など、日本語による KMP 理解に取り組んできた。さらに、その応用方法を探る中で、身体的共感との関連<sup>6)</sup>や記譜や分析の実態<sup>7)</sup>を明らかにして、KMP の可能性をさまざまな角度から探ってきた。KMP は、2つのサブシステムに大別された9つのカテゴリーから構成され、合計 62 の分析項目が、さらに 120 の動きに細分化された複雑なツールである。そのため KMP の習得

には多くの時間と労力を要し、日本における KMP 学習には課題が多いのが現状である。

筆者は、2014年8～10月にKMPの集中講座の全てのカリキュラムに参加する機会に恵まれたのを機に、2015年8月にKMP分析家(KMP Certified Analyst)資格を取得した。この学びの過程で、実際にカテゴリーごとに区分された分析項目の動作を何度も繰り返し体験したことで、KMPのさまざまな動きやその違いの理解につながった。このような動きの実体験は、運動分析の理論や技法を理解する上で不可欠なものであり、集中講座では動きの体験を身体感覚として根付かせるために、多様な工夫がなされていた。また、筆者にとっては母国語と異なる言語での学習のため、KMP習得のためにはビデオによる復習が必須であり、関係者の同意を得て全課程をビデオによる記録として残すことができた。

本研究では、これらの体験を元にKMPの入門コース30時間を映像、記録、配布資料、提出したレポートなどの資料から振り返り、カリキュラムの構造を明らかにする。特に実技内容に着目し、日本語でのKMPの学びに必要な教材とは何かを考察し、今後日本でのKMP学習に活用しうる教材研究を行うことを目的とする。

## 2. KMP 入門コースの内容と学びのための基礎知識

KMP 入門コースは、Table1 に示したレベル I の分析家資格の全 90 時間のカリキュラムの中の最初の 30 時間に該当し、全項目の内容理解と臨床応用への契機となることを主眼に構成されている。

Table 1 Curriculum of Level I for KMP Analyst Certification

学習目標	発達段階に沿って心理学的視点を持ちながら、さまざまな動きを体験し、認知し、記譜し、解釈する。
到達目標	動きには本人の嗜好性や文化性が影響することを理解し、発達の側面を理解しながら、非言語的分析ツールである KMP が使えるようになる。
学習時間	Level I はのべ 90 時間を要し、30 時間毎に 3 つの枠組で構成される。
3 つの枠組	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. KMP の全項目の概要の理解と項目ごとの観察</li> <li>2. テンションフローリズム、両極性シェイプフロー、単極性シェイプフローの理解と記譜、データに基づくグラフ化及びその解釈</li> <li>3. テンションフロー特性、前駆エフォート、エフォート、方向性シェイプ、面性シェイプ、および身体的特徴の理解と記譜、データに基づくグラフ化及びその解釈</li> </ol>
課題	<p>期間中 3 回の宿題(プレゼンテーションを含む)と枠組毎に以下の課題レポート提出。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. KMP 全項目の観点からのビデオ観察に基づく幼児の観察レポート</li> <li>2. ビデオ観察に基づく幼児の 3 項目分析をまとめたグラフ作成とその解釈のレポート</li> <li>3. 提出済みの 3 項目を含む全項目のグラフ作成とその解釈及びセラピストの立場からの助言</li> </ol> <p>30 時間毎の各講習修了後の指定された期日までに提出する。特に最終レポートは、その分析結果の妥当性の審査を受け、必要に応じて手直しや新たな課題を提出し、合格者に Level I の資格が授与されることとなる。</p>
主な使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Kestenberg-Amighi, J. &amp; Loman, S., The Meaning of Movement Developmental and Clinical Perspectives of the Kestenberg Movement Profile, Amsterdam: Gordon and Breach Publishers, pp.1-307 (1999)</li> <li>・ TRAINING MANUAL FOR THE KESTENBERG MOVEMENT PROFILE The Sand Point Movement Study Group Child Development Research 2008 Revised by Loman, S. Antioch University</li> <li>・ Kestenberg, J. Children and Parents Psychoanalytic Studies in Development Jason Aronson, Inc, pp.157-170 (1975)</li> </ul> <p>*その他担当者によって適宜数本の論文が追加される。</p>

今回筆者が修了した入門コースのシラバスに記された到達目標とコースの概要をまとめたものが、次の Table 2 である。この入門コースでは、講習で学んだことの理解を深めるため、講習期間中は毎日人の動きの観察やその結果についてのプレゼンテーションなど、課題が課せられていた。30 時間修了後の幼児の分析レポートの提出に関しては、次に続く 60 時間の記譜の講習に参加し、所定の単位を必要とする者に限定されていた。なお、この入門コースはダンス・ムーブメントセラピストの養成大学院に

おける 15 週間にわたって実施される KMP の授業と同等の内容である。

**Table 2** Learning Objectives and Course Outline of KMP Introductory Course

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ KMP に含まれる動きのパターンに親しみ、どのように発達が進んでいくかを理解し、さらにそれぞれの動きのパターンの心理学的重要性を理解する。</li> <li>・ KMP 独自の概念を把握し、応用できるようになるために理論的な枠組を理解する。</li> <li>・ (評価、治療計画、介入、治療の進展の評価などにおいて) KMP を臨床に活かせるようになる足がかりをつける。</li> </ul>
概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. KMP 紹介と基本概念の理解</li> <li>2. テンションフローエフォートシステム：動きの感情と実態</li> <li>3. シェイプフローシェイピングシステム：動きのフォームと構造</li> <li>4. 各システムの復習と統合(調和または衝突する動きの要素の関係性)</li> <li>5. KMP の臨床応用</li> </ol>

このような KMP のコースでは、Laban<sup>8)</sup>や Lamb&Watson<sup>9)</sup>などの運動分析の基本知識についての説明は含まれていない。講座は一般的な運動分析に関するエフォートやシェイプの専門用語を理解しているという前提から始まるのである。さらに、Freud, A. による児童精神分析の理論<sup>10)</sup>だけでなく、山崎<sup>11)</sup>が指摘する Freud, A. 独自の女性の視点からの発達理解、さらに KMP を心理学の立場から支える Sossin による KMP 分析の動きの枠組と Freud, A. 理論の具体的な関係性<sup>12)</sup>など、KMP の独自性を理解するには、これらの基礎知識が不可欠である。特に、KMP 理論全般における発達の捉え方には特徴があり、Laban のエフォートの中の空間(Space)、重さ(Weight)、時間(Time)の 3 要素が、幼児の発達に沿って構成されている。Laban のエフォート要素の流れ(Flow)は、前述の 3 要素全てに関連する包括的な概念として捉えられている。これは、Laban のエフォートでは 4 つの要素がそれぞれ戦闘的(fighting)または陶酔的(indulging)という 2 項対立の概念で構成されている実態とは異なっている。さらに、Laban のシェイプの理論に関する水平・垂直・矢状(Horizontal/Vertical/Sagittal)の 3 つの面(Plane)については、使用される用語は一致するが、ここでも 3 つの面が幼児の発達年齢の順に構成され、その発達の時期に同期するものとして扱われている。そこで、Laban の理論と異なる動きの枠組について、KMP を学ぶための基礎知識として原語を併記してまとめたものが次の Table 3 である。

**Table 3** Required Basic Knowledge on Movement Analysis and Development for KMP Study

エフォート Effort	自由な流れの要素 free flow	拘束された流れの要素 bound flow	該当する面 Planes	該当する発達年齢 Developmental years
空間 Space	蛇行 Indirect	直行 Direct	水平 Horizontal	0-1 歳
重さ Weight	軽 Lightness	重 Strength	垂直 Vertical	1-2 歳
時間 Time	<u>減速 Deceleration</u>	<u>加速 Acceleration</u>	矢状 Sagittal	2-3 歳

これらの基礎知識については、特にふれられないまま入門コースは始まっている。このことは、欧米などでダンス・ムーブメントセラピーを学ぶ場合、Laban などの運動分析の知識は必須であり、わざわざこの基礎知識にふれる必要はないためと考えられる。しかし日本の現状は異なり、欧米ほど Laban の運動分析の理論は定着しておらず、KMP 理解のためには、これらの基礎知識と Laban 理論との違いをしっかりとふまえておくことが必要であろう。さらに、KMP の分析項目におけるエフォートは、Laban のエフォートとは一部用語が異なっており、その違い(Table3 太い斜字体下線箇所)についても予め把握する必要がある。Laban の場合、時間については、時間をかけずに素早く動く場合-時間を引き延ばすようにじわっと動く、Quick-Sustained という用語が用いられている。このような Laban を基盤とし、かつ KMP 独自のエフォートとシェイプの関連を、学びのための基礎知識として事前に理解することが、KMP を学ぶ前提条件となるのである。

### 3. KMP 入門コースにおける動きの実体験とカリキュラムの構造

今回参加した 30 時間の入門コースは、1 日 7 時間半の 4 日間の連続講習であり、一般的な KMP の集中コースである。基本概念の理解のために、1 日毎に異なる文献の読破が課せられていた。しかしながら、このような運動分析を字面だけで理解するのは不可能であり、講師もそのことを十分に理解し、さまざまな動き取り入れていた。講習時には気づくゆとりすらなかったが、修了後ビデオによるレビューを行ったことにより、入門コース全体の実技の内容を振り返り、理解を深めることができた。

そこで、改めて 30 時間分の記録映像を全て掘り起こすと、全てのカテゴリーの学習で次のような構造でカリキュラムが構成されていたことが明らかになった。すなわち、文献を示しながらの理論解説、具体的動きの提示(ビデオ鑑賞)、分析項目の動きの体験、体験の振り返りである。カテゴリーによっては順序が前後する場合もあったが、これらの内容が常に織り込まれていた。特に筆者にとって動きの実体験は KMP の分析項目を身体感覚として理解できた貴重な体験であった。そこで、この動きの実体験の具体的内容と所要時間(受講生がフロアに移動し、講師の指示に従って実際に動いた時間)をまとめたものが次の Table4 である。このワークは 4 日間で 25 回に及び、実働時間は 2 時間 20 分を超えていた。加えてワーク後には、必ず動いたことによる気づきなどについて参加者同士で議論を時間をかけてじっくり行った。それらの議論を元に、講師との質疑応答を行うなど、動きの実体験から KMP 理論を身体感覚に根付かせて理解するための時間が常に設けられていた。なおこの時間については、動きそのものではないため Table4 の時間からは削除している。但し、No.17 のワークは、フロアでの実技ではなく示された映像を観察しながら、椅坐位姿勢でその動きを感じる内容であったが、実際には画面上の動きをからだでミラーリングする場面も含まれていたため、実体験として位置づけた。

KMP の入門コースでは、このような多様な動きの実体験がカリキュラムの中に常に織り込まれていた。単なるからだを動かす実技ではなく、次の Fig.1 に示す複合的な学びの円環の中で、KMP の理論を学ぶこと、映像などの資料からその理論に基づく動きを観察すること、そして実際に生身のからだで受講生自身が動くこと、それを時には互いに観察し合うこと、さらに動きの体験を振り返り言語化して学んだ理論とつなげること、その過程で疑問が湧き起こればすぐに講師に質問をして問題解決を適宜図り、共に考えていくことが積み重なって KMP の理解へと発展していく構造がカリキュラムの根幹にあった。

Table 4 Contents of Movement Experiences in KMP Introductory Course

No.	KMP 項目	内容	時間
1	System1	free-bound の流れで動く	4:02
2	System2	growing-shrinking の流れで動く	5:42
3	TFR	テンションフローリズムの 10 のリズムで動く	9:35
4	TFR	10 種の音楽を用いてテンションフローリズムの 10 のリズムで動く	12:20
5	TFA	テンションフローリズムの 6 つの動きを free-bound-neutral で動く	8:30
6	TFA	テンションフロー特性の free の動きのみ用いて即興で動く	6:10
7	TFA	テンションフロー特性の bound の動きのみ用いて即興で動く	7:07
8	PreEffort	前駆エフォートの 6 つ動きを確認しながら動く	4:00
9	PreEffort	サークルダンスをいきなり踊り前駆エフォートを感じる	6:55
10	PreEffort	捕食動物対草食動物のロールプレイをする	3:12
11	Effort	台本に従い、さまざまな動物や人物や物体を演じる	11:20
12	BSF	両極性シェイプフローの 6 つの動きを確認する	8:15
13	USF	単極性シェイプフローの 10 の動きを確認する	4:07
14	SinD	音楽に合わせて方向性シェイプを用いて動く	4:00
15	SinP	音楽に合わせて面性シェイプを用いて動く	3:40

continued



16	System2	システム2の全ての動きを基本とした作品を創り発表する	5:22
17	SinD & SinP	ダンサーの多様な動きを観察しながら同時にそこに出現している方向性および面性シェイプを指摘する	8:00
18	TFR	1種類の音楽を用いて10のTFRを用いて動く	9:20
19	System1 & 2	音楽を用いてシステム1 & 2のfree-bound及びgrowing-shrinkingの違いを意識して動く	3:35
20	System1	音楽を用いてシステム1のすべての動きのfree-bound-neutralを意識して動く	3:05
21	TFA & BSF	テンションフロー特性と両極性シェイプローの衝突する動きの組み合わせで動く	6:32
22	TFA & BSF	テンションフロー特性と両極性シェイプローの調和する動きと衝突する動きの組み合わせを対比しながら動く	7:35
23	PreEffort & SinD	前駆エフォートと方向性シェイプの調和する動きを用いた台本に沿って、お化け屋敷を探検するロールプレイを行う	3:15
24	PreEffort & SinD	前駆エフォートと方向性シェイプの衝突する動きを用いた台本に沿って、お化け屋敷を探検するロールプレイを行う	2:39
25	Effort & SinP	エフォートと面性シェイプの調和と衝突する動きの組み合わせを意識して動く	4:16

KMP 項目略号：TFR-Tension Flow Rhythm, TFA-Tension Flow Attributes, PreEffort-Precursors of Effort, BSF-Bipolar Shape Flow, USF-Unipolar Shape Flow, SinD-Shaping in Direction, SinP-Shaping in Planes

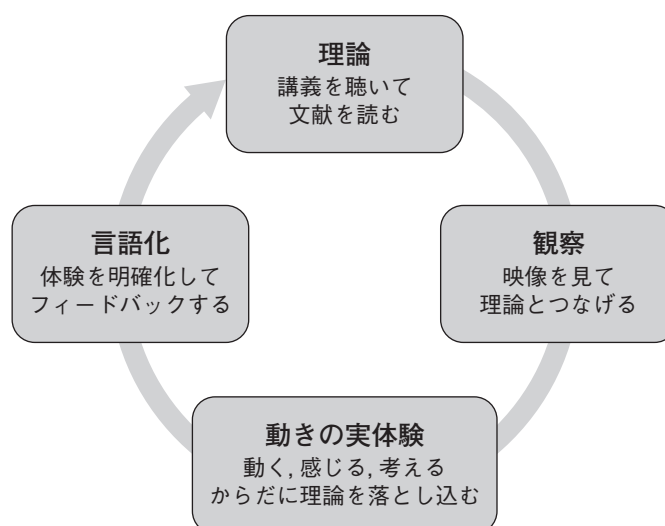


Fig.1 Circulation of Structure of KMP Introductory Course

とりわけ、この円環の中での動きの実体験と受講生同士の言語化によるフィードバックは、生身のからだでの動きの体験から成り立つものである。KMPの学びの時空間に同時に居合わせ、同等の基礎知識を持ち合わせた上で、動きや思いを共有できるため、机上の学びだけでは会得できない内容であろう。このようにKMPを理解するためには、学びの円環が幾層にも積み重なり、からだを通した動きの実体験が螺旋状につながることを求められていた。そしてカリキュラムが、理論を学び観察で見聞を養い、動いて実感し言語化で理解を深めるといった円環の中に構造化されていたのである。

#### 4. KMP教材の検討

KMP入門コース30時間の内容について動きの実体験を中心に振り返ることにより、動きの体験をどのようにKMPの学びに落とし込んでいくかという点が、最も重要であることが明らかとなった。特に日本語での学びにおいては、原語のままでの理解の困難さと翻訳用語の難解さなど課題も多いため、動

きを豊富に経験して体感的に KMP の動きの要素や各項目の意図するところを理解していくことが求められる。そのためには、KMP の指導の際、ただ要素ごとの用語を伝え動くだけでなく、学びを深めるために、動きを伝えるための独自の教材が求められているように思う。その一方で運動分析の教材としては、Laban の舞踊記譜法では、すでにマルチメディア教材が用いられる<sup>13)</sup>などデジタル化が進んでいる。KMP においても記譜を学ぶためのシステム<sup>註2)</sup>が開発されており、学習の効率化が図られている。

しかしながら、特に日本語で欧米から発展したこのような運動分析を学ぶ場合、動きをどのような枠組で捉えるのかという視点を、動きを通して理解する必要があることは言うまでもない。理論的枠組を離れ、学び合う者同士の動きの相互作用を引き出し、その動きの学びが個人内に終わることなく発展していく仕掛けとして、複数人で成立する動きの体験が組み込まれていることが求められる。そこには、ある種の遊びの要素があることで、学びを楽しみ動きを楽しみ心を動かし、その動きを共有し合う者同士の交流により、新たな学びへとつながることを意図したゲーム性のある教材が必要であろう。そこで、Table 4 に示した 25 種の動きの実体験をふまえ、KMP の分析項目とその項目を学ぶために必要な教材の、動きを楽しみ動きの共有で交流が図ることを意図した特性を項目毎にまとめ、Table 5 に示した。

Table 5 Favorable Features of Teaching Materials for KMP Understanding

KMP 項目	KMP の理解を促進させる教材の特性
TFR	10 種のテンションフローリズムが自由に組み合わせられて、他者と共に体験できるような指示
TFA	6 種のテンションフロー特性の動きが free-bound の区分と共に、自由に表現できる指示
Pre-Effort	前駆エフォートの項目の特性である不安を惹起し、新たな動きを学習するための場面設定
Effort	エフォートに示された 6 種の動きが複数に組み合わせられた体験が可能な動きを発する事物の例示
BSF	両極性シェイプフローの 6 種の動きを抽出できる写真や動きのイメージを引き出す視聴覚資料
USF	単極性シェイプフローの 10 種の動きを抽出できる写真や 10 種の動きが経験できる場面設定
SinD	方向性シェイプの 6 種の動きがイメージしやすい音楽、典型的な動きの映像、前駆エフォートと関連する動きが引き出せるロールプレイの台本
SinP	面性シェイプの 6 種の動きの典型的な映像、エフォートと関連する動きの場面設定
System1 & 2	Free-bound, growing-shrinking の対比がイメージしやすい異なる曲調の音楽

\* KMP 項目略号は Table 4 と同じ

これらの特性を有するものとして、次の教材の作成を試みた。テンションフローリズムについては、10 種のリズムの用語を言語と日本語訳示したカード、およびこれらの動きがイメージできるオノマトペがかかれたカード(Fig.2)を作成した。これらのカードを組み合わせることにより、10 種のリズムだけでなく、これらのリズムが組み合わせられたミックスリズムを作り出すワークの指示が容易になると考えられる。またカードの組み合わせパターンも多様となり、同時に多くのリズム体験が可能である。

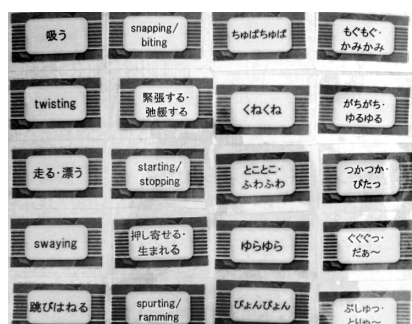


Fig.2 Tension Flow Rhythm Cards

テンションフロー特性, 前駆エフォート, エフォート, 両極性シェイプフロー, 方向性シェイプ, 面性シェイプの分析項目がそれぞれ6種ずつであることに着目し, 紙製のサイコロを用いて, それぞれの面に動きの要素を書き入れた(Fig.3, 4). さらに動きの関係性を明確化するために, サイコロ面の上下は, 相対する動きの要素である free-bound, growing-shrinking となるように統一を図った. 加えて, 各サイコロがどの KMP 要素を示すのか, そのタイトルについてはサイコロの6面には明記せず, 蓋の折りこみ部分に書きこむことで, 用語を記憶するための一助とした(Fig.5). 10種の動きを有する単極性シェイプフローについては, 垂直面と矢状面が4種ずつの動きであることをふまえ, 同一面に2種類ずつ記載し, その整合性を図るようにした(Fig.6). サイコロを振るというゲームの要素により, 楽しみながら6面にかかれた全ての分析項目が示す具体的な動きの理解を促進させるものと思われる.

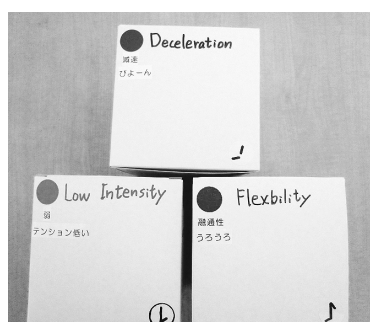


Fig.3 Paper Dices of Tension Flow Attributes, Precursors of Effort and Effort

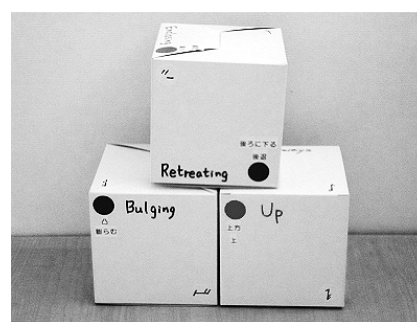


Fig.4 Paper Dices of Bipolar Shape Flow, Shaping in Direction and Shaping in Planes



Fig.5 Example of how to write a title on KMP Paper Dice



Fig.6 Paper Dice of Unipolar Shape Flow

テンションフローリズムと単極性シェイプフローを除く6つのKMP項目は, 前述したように6種ずつの分析項目の動きから成り立っている. またこれら全ての動きは, 水平・垂直・矢状の3面及び free-bound, growing-shrinking の2項対立の動きから成り立つ共通点がある. これらをより視覚化し, その関係性を明らかにしたものが, 前述したKMP色別円形図である. この6種の動きの区分の色をTable 6に示すように統一して, 色付きのキューブを用いた教材を作成した. この色付きキューブは, ビーンバッグと称される幼児向けの教材としてアメリカなどで市販されているものである. 形はキューブ型, ボール型, ピラミッド型などがある. 今回は原語を用いたものをキューブ型(Fig.7), 日本語を用いたものをボール型(Fig.8)とした. これらは, 今後日本語でKMPを指導する際, 実際の分析項目の動きを体験する場合やその動きを確認し理解するための教材として活用する予定である.

Table 6 Color List of KMP Elements of Six Factors

要素区分	水平面 free-growing	水平面 bound-shrinking	垂直面 free-growing	垂直面 bound-shrinking	矢状面 free-growing	矢状面 bound-shrinking
色	橙	青	黄	紫	緑	赤

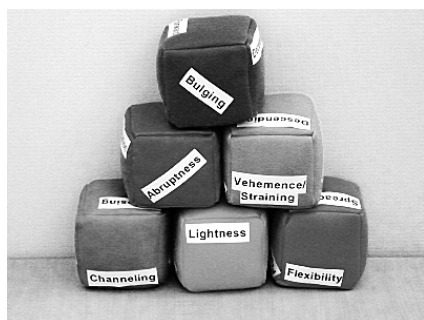


Fig.7 Color Cubes of KMP for the same elements written in English

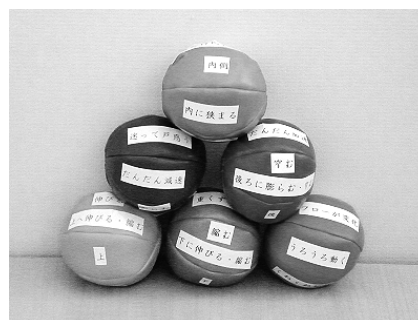


Fig.8 Color Ball of KMP for the same elements written in Japanese

さらに、テンションフローリズムの動きを誘発するような曲、どのリズムにも対応できる曲、free-bound や growing-shrinking などのフローの質の違いを意識できる曲などの選定、場面設定や特定の動きを引き出すことを意図した台本なども、動きを共に体験する教材として有用であろう。このような教材を用いて、学び合う者同士がロールプレイを楽しみ、その後動きを振り返ることにより、KMP 項目が示す動きの理解が促進される。また、本来の自然な動作とは異なる、調和せず衝突する動きが視覚的に捉えられるような動きを切り取った写真や映像なども、Fig.1 に示した円環の動きの観察からの学びを引き出す教材として活用できる。KMP の教材開発は、学びの円環の「観察」と「動きの実体験」に特化したものとして位置づけることが、日本語で運動分析を学ぶ際の理解を深める一助になると思われる。

## 5. おわりに

KMP は、欧米のダンス・ムーブメントセラピーの運動分析においても、難しく理論的であるという意見がある。この分析法を日本語で理解する困難さに向き合いながら、筆者自身ようやくその全容を動きで理解することが可能となった。今後日本語での KMP 理解を進めていくためには、筆者が体験したように動きの実体験が不可欠である。日本でダンス・ムーブメントセラピーを学びながらも、運動分析の重要性に欧米と温度差があるのは、これらの動きの実体験の欠如に起因している。多種多様な分析項目の動きを理解するための教材は、講師の経験値から生まれるものだけでなく、構造化され明確な狙いを持つことも必要と思われる。今後は、実際に日本語で KMP の指導を行う中で、参加者の運動分析の理解に応じた新たな教材開発も視野に入れ、実践を進めていきたい。

さらに教材そのものの検討だけではなく、その教材を取り入れた学びのカリキュラムをどのように組み立てていくのか、さらにスカイプなどを活用した学習プログラムを通じて遠隔地の受講生とどのように学び合うのかなどの新たな課題もある。そしてその先には、最も困難である KMP の記譜そのものを理解しその技法を会得し、動きのラベル化や数値の処理など、観察された動きをデータ化し臨床応用のための解釈を行うための KMP カリキュラムの検討が必要である。

## 文 献

- 1) Kestenbergh-Amighi, J. & Loman, S., *The Meaning of Movement Developmental and Clinical Perspectives of the Kesten-*



- berg Movement Profile*, Amsterdam: Gordon and Breach Publishers, Amsterdam, pp.1-307 (1999)
- 2) 大橋さつき, ダンスセラピーにおける動作分析法の適用性, お茶の水大学人文科学紀要, **53**, pp.315-325 (2000)
  - 3) 大橋さつき, 共感する身体を探る —ダンスセラピーにおける Kestenberg Movement Profile 理論より—, お茶の水大学人文科学紀要, **54**, pp.223-232 (2001)
  - 4) Loman, S. & Sossin, K. M, Applying the Kestenberg Movement Profile in Dance/Movement Therapy: An Introduction, Edited by Sharon Chaiklin and Hilda Wengrower *The Art and Science of Dance/Movement Therapy Life is Dance*, Routledge, 2009 pp.237-264, 崎山ゆかり & 中めぐみ訳, ダンス・ムーブメントセラピーにおけるケステンバークムーブメントプロフィール(KMP)適用法入門, ダンスセラピー研究, **6**, pp.37-59 (2012)
  - 5) 崎山ゆかり, 中めぐみ, Kestenberg Movement Profile における運動分析専門用語の解釈に関する検討, 武庫川女子大学紀要人文科学編, **58**, pp.13-21 (2010)
  - 6) 崎山ゆかり, ケステンバーク・ムーブメント・プロフィール解題のための試論 —調律の概念に着目して— ダンスセラピー研究, **6**, pp.8-16 (2012)
  - 7) 崎山ゆかり, 中めぐみ, Kestenberg Movement Profile の記譜における学びの過程と分析対象者への調律に関する検討, 武庫川女子大学紀要人文科学編, **60**, pp.63-70 (2012)
  - 8) Laban. R., *The Mastery of Movement*, Macdonald & Evans, London, pp.1-181 (1960), 神澤和夫訳, 身体運動の習得, 白水社, 東京, 第4版, pp.1-247 (1990)
  - 9) Lamb, W. & Watson, E., *Body Code The Meaning in Movement*, Princeton Book Company, New Jersey, vol.2, pp.85-127 (1987)
  - 10)フロイト, A. 児童分析 教育と精神分析療法入門, 北見芳雄, 佐藤紀子訳, 誠信書房, 東京, pp.2-175 (1961)
  - 11) 山崎篤, アンナ・フロイト —その生涯と業績, 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, **44**, pp.95-102 (2012)
  - 12) Sossin, M. K., Metapsychological Considerations of the Psychologies Incorporated in the KMP System, Edited by Lewis, P. and Loman, S. *The KMP Its Past Present Applications and Future Directions*, Antioch New England Graduate School, New Hampshire, pp.101-113 (1990)
  - 13) 中村美奈子, 山川誠, 八村広三郎, 舞踊記譜法 Labanotation とモーションキャプチャを用いた舞踊教育のためのマルチメディア教材の開発, 情報処理学会人文科学とコンピュータ, **50** (5), pp.33-40 (2001)
- 註1) KMP 分析上級指導者 Hastie, C. S. 作成の KMP Color Wheel. 許諾を得て崎山が 2010 年訳出.
- 註2) ドイツにある欧州ダンスセラピーセンターのダンスセラピストで KMP 分析家の Susanne Bender らが開発したソフトウェア. ラバンの記譜記号も同時に学べ, 英・独・中国語の3ヵ国語対応.

受稿日 2015 年 9 月 17 日 受理日 2015 年 11 月 5 日